

銅賞

大切な絆

横須賀市立ろう学校中学部二年 青木結花

私が今通っている横須賀市立ろう学校は、幼稚部、小学部、中学部、高等部を全部合わせても、生徒が十六人だけのとても小さな学校です。そして、皆が私の兄弟や姉妹のようで、家族みたいな存在です。

私は三歳頃から、この学校に通っています。私にとっては慣れ親しんだ、とても過ごしやすい場所です。しかし、小学部の時に同年代の他の子と話す機会が少ないので、一般の小学校と交流をしました。その時は、やはり外の世界との違いの大きさを感しました。

ろう学校では、中学二年生は私一人だけなので、授業はいつも先生と一对一です。発表の時などは中高等部一緒で行いますが、自分の考えや意見を比べることのできるクラスの友達がいないので、とても不安になることがあります。「大丈夫かな？どうすれば良いのかな？」と悩んでしまうことがあります。ひどい時は、頭の中が真っ白になって、パニックになることもあります。そういう時は、いつ

も近くにいてくれる先生に必ず相談しています。

確かに、今の学校は私にとって居心地が良く、毎日楽しく生活できる場所です。しかし、私の心の中にはそれに甘えているところがたくさんあることも事実です。今は学校の先生方や子ども達も皆、私の家族のように温かく包んでくれますが、もし学校を卒業して社に出たら、一体どうなるのだろうか？自分が困った時や一人ぼっちになった時、私が真つ暗闇にのまれてしまった時、誰が私に手を差しのべてくれるのだろうか？そういう友達や仲間が、これから私にできるだろうか。

そんなことを考えていたら、不意にろう学校を卒業した先輩方のことが頭に浮かんできました。私がこれまで苦しい時、困った時にいつも助けてくれた先輩。いつでも優しく、頼もしくて、かっこ良かった先輩。毎日遅くまで部活動で汗を流し、棒高跳びでデフリンピックに出場した先輩。難しい問題でも最後まで解けるまで絶対にあきらめず、見事に大学に合格した先輩。職場実習や会社訪問で、マナーを徹底的に身に付け、今では企業でバリバリ働いている先輩。そんな、ろう学校の先輩方の姿が、輝いて見えました。

私も、あんな先輩みたいになれるのだろうか？いや、なりたい。

絶対になりたい。私も先輩方にももらったように、後輩のために何かしてあげたい。何かを残してあげたい。皆の手本となれるように頑張りたい、と思うようになりました。

小学部時代の交流では、ただ人数の違いや学校の大きさの違いに圧倒されて、尻ごみをしてしまった私でしたが、あの当時と比べると、自分でも少しは成長できたかなという気がします。中学部に上がり、生徒会役員の一員になってからは、自分でも意識して人前で意見を言ったり、大きな声で挨拶をするように心がけているつもりです。

このろう学校で私が経験していることは、同じ聴覚に障害をもつた人同士がただ仲良くしているということでは決してありません。同じ障害をもっているからこそ、相手の立場になって言えることやできることがあるのです。時には互いに支え合ったり、時には甘やかさずに厳しく接することも必要です。それを私に教え、気づかせてくれたのは、勿論先生方のおかげもあるのですが、何と云っても先輩方の存在が大きかったと感じています。

私は、この学校で手にいれた「絆」を大切にしたいと思います。そして、まだ見ぬ未来の自分とこれから出会う人々をつなぐ絆を大

切にしたいと思えます。